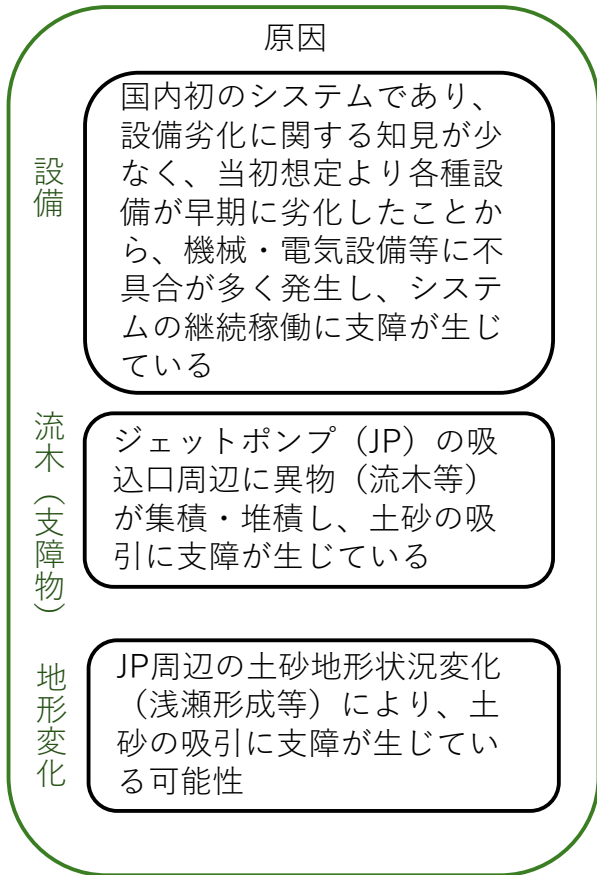
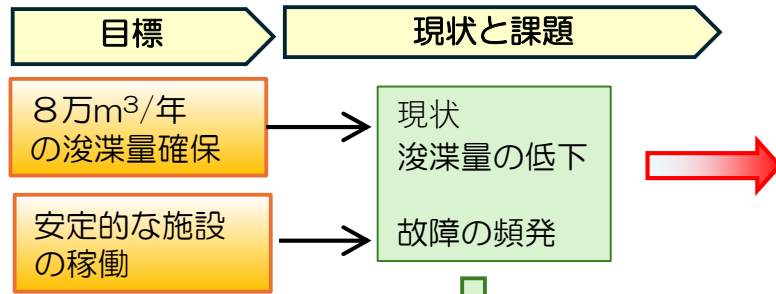


サンドバイパスシステム機能回復に向けた戦略案



機能回復対策

基本方針

- これまでの維持管理経験と実績を活かし、より効果的で最適な維持管理計画へ更新する。当該計画に基づき、高精度な予防保全型維持管理を実施することで、突発的な故障による運転停止リスクを最小化するとともに、設備不調による浚渫効率の低下を防止し、浚渫量を回復する。
- 経済性を考慮し、効率的に対策を行っていく必要があるため、まずは実現可能性が高く、早期に効果が見えやすい対策から優先的に行っていく。なお、新たな知見や情報の収集を継続して行い、対策を順次ブラッシュアップする。
- 船舶による浚渫により、従前の海底地形状況を回復することが理想であるが、浅瀬地形を船舶により短期的に全量浚渫することは、海象等の施工条件、経済性等から現状では困難と見込まれることから、他の対策をまずは優先する。
- 浚渫量の回復にあたっては、システムに影響を及ぼす複数の要因が複雑に相互作用し、不確実性が高いことから、対策の実施にあたっては必要なモニタリングを行い、結果に応じて柔軟に対応を変更する順応的管理を行い、継続的に改善策を追求していくものとする。
- 浚渫量 = 浚渫時間効率（A）× 設備不調がなく運転な時間（B）
上記方針を考慮し、浚渫量を回復するため、（A）及び（B）を高める対策を重点施策として実施する。

- 重点施策 1
 - 実効性の高い予防保全型維持管理による設備の安定稼働
- 重点施策 2
 - 流木対策の検討、試行、確立及び最適化

留意点

- 浅瀬地形については、対策により 8 万 m³/年以上の浚渫量に回復させることにより、従前の地形への回復を図る。
- 8 万 m³/年に浚渫量を回復させるまでの期間においては、港口の堆積や浅羽海岸の状況等に留意し、モニタリングを行い、必要に応じ船舶等による浚渫を検討する。

(参考) 状況分析のとりまとめ

